



DRCnet 東日本大震災救援キリスト者連絡会

ヒエラルヒーとネットワーク
コミュニケーションと意志決定の
スピードアップを人々のために！



林 幸司

facebook 「クリスチャン地震被災状況」
グループ、東京メトロチャーチ主管牧師

I.Facebookグループの働き

- 3/12朝に、facebook（以下FB）上にグループを立ち上げた
- 多くの人々が加入し始め、安否情報を中心に情報交換した
- 首都圏の帰宅難民にも用いられた
- このグループで話し合われるべきことと、そうでないことの交通整理のために、多くのガイドラインを作成した

- ほぼ同時に、日本アッセンブリー教団災害対策本部に招集され、「情報担当」として奉仕している
- 被災者・支援者・本部・教会（支援側と被災地側）との間にギャップがある
- 組織とネットワークの間にある「役割の差」「守備範囲の差」「スピード感の差」などに葛藤している

II. ヒエラルヒーとネットワーク

- ヒエラルヒー的組織だと、必要に答えるための決定（決済）プロセスに時間がかかり過ぎてしまう
- 一方でネットワークだけだと、重要な決済ができなかったり、それぞれの加入者の間で勝手にやりとりされる
- 両方の良い点が生かされる在り方が必要

対策本部

実行委員

現地支援教会支援者

被災教会、被災者

発信から結果までの時間差が大きい



マタイ7:7 ですから、私のほうから伺うことさえ失礼と存じました。ただ、おことばをいただかせてください。そうすれば、私のしもべは必ずいやされます。

7:8 と申しますのは、私も権威の下にある者ですが、私の下にも兵士たちがいまして、そのひとりに『行け』と言えば行きますし、別の者に『来い』と言えば来ます。また、しもべに『これをせよ』と言えば、そのとおりにいたします。」

- 「行け」と言うことに罪悪感を感じないこと
- 言われることに腹を立てないこと
- そのためには、まず相互の信頼関係が前提
- それぞれの賜物（得意なこと）が何であるかを理解し合い、最も効果的に働くことができるように、キリストのからだとして一致することが大切

ヨハネ15:15 わたしはもはや、あなたがたをしもべとは呼びません。しもべは主人のすることを知らないからです。わたしはあなたがたを友と呼びました。なぜなら父から聞いたことをみな、あなたがたに知らせたからです。

- 現地から「必要」について訴えてから「なしのつぶて」と受け取られてしまう
- 本部が検討している「プロセス」を発表しないためにそのことが起こる
- 「私達は検討中で、3時間以内に結論を出します」と答えてあげる必要がある
- 決済（特に費用）について、組織として明確化する必要がある
- トップは説明責任が生じているため慎重になる



1. 組織や人々の垣根を越えて情報を共有することができる
2. 情報交換の重複を避けることができる
3. 出来るだけ正確な情報提供を助ける
4. 垣根を越えた協力を促す

- 現地と支援側両方に格差が生じる
- ネットワークに加入している人とそうでない人との間の情報格差によって、支援や援助金の配分が不公平になる
- 優先順位や戦略を同意しにくいし、そういう役割であるかどうかとも問われる
- 加入者に責任が伴わないので、無責任な情報提供などが起こりやすい

III.コミュニケーションと意志決定の スピードアップを人々のために！

- 私達の目標点
- 一日も早く被災者を物心両面で支援するため、日本と世界のクリスチャンが連携する
- 復興に向けて、地域社会と現地のクリスチャンをサポートすること

- カルチャーショックの問題
- 世界宣教と被災地支援の類似点
- 被災地は、日本であって日本ではない
- 言葉も文化も、環境も生活様式も全く変わってしまった
- 「同じ日本人、日本語、日本文化だ」と思って入っていくと、とんでもないカルチャーショックに陥る

- 多国籍宣教師によるネットワーク協力態勢
- 教派団体を問わない、「日本語教会」
(Japanese Christian Fellowship)の存在
- 本国との情報共有をしつつ現地決定、決
済ができる意志決定方法



DRCnet 東日本大震災救援キリスト者連絡会

IV. DRCnetへの提言

- 様々な壁、溝を越えるために、変化に対して積極的に becoming すること（例：今まで接しなかった教派・教団と連携する、宣教・教会・社会貢献について話し合う・・・など）
- 「ネットワーク」の枠を広げて、みんなが一同に「食事する」ようなチャンスを設けること

- 「非公式会合」という形でネットワークを重ねることによって、DRCnet（日本の福音的キリスト教）としての迅速に「機関決定」や「決済」をすること
- 日本のキリスト教として、政府や企業に対して、復興のビジョンと具体策と担うことが出来る役割を提示すること
- 世界の教会・クリスチャンと連携して、復興への道を推進すること